

第1回 SPARC Japan セミナー2019

「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～実践に向けて～」

開会挨拶/概要説明

鈴木 親彦

(国立情報学研究所 /

データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター)



鈴木 親彦

2019年度SPARC Japanセミナー企画ワーキングメンバー。

情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター (CODH) および国立情報学研究所 (兼務) 特任研究員。美術史学・文化資源学・人文情報学を修め、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学後、2017年より現職。研究対象は情報学の成果およびオープンデータの人文社会への応用。現在は特にIIIF画像の活用に重点を置いている。

<https://researchmap.jp/chsuzuki/>



第1回セミナーの趣旨

SPARC Japan ではこれまで何度か、人文学および社会科学をテーマにしたセミナーを開催してまいりました。昨年、数年ぶりに人文社会系分野をテーマとしたセミナーを開催しましたところ大変好評で、これまでのように年を空けずに毎年動きをウオッチすべきだという声も多く頂きました。われわれ企画 WG いたしましても、人文社会系分野で今後ますますオープン化を巡る動きが重要になってくると考え、昨年に引き続き人文社会系をテーマとしたセミナーを企画しました。

昨年のセミナーでは、人文社会系においてオープンサイエンスを進めるためのインフラをどのように構築していくかという面に重点を置きました。国の政策などの大きな動きから、個別の研究に寄り添った細かな動きまで幅広く講演を頂き、ディスカッションを行いました。今回はもう少し行動の方に軸を移して、具体的な研究活動の蓄積に軸を置き、実践的かつオープンな研究活動が既に展開されている取り組みについて、

講演とディスカッションを行ってまいります。

実践に向けて

ごく簡単にこの後の講演の流れをご説明いたします。まずは、研究者によるデータ構築と市民科学の間をつなぐ媒介者としての役割ということで、リサーチアドミニストレーターについての取り組みをご紹介します。続きまして、言語学分野における基盤データの構築とそれを用いた研究活動について、さらに、研究者と市民が協働し新たな研究データを作っていく、「みんなで翻刻」の取り組みについて、それぞれご講演いただくことになっております。

講演の最後に、講演者の皆さまと企画ワーキンググループのメンバーが登壇して、パネルディスカッションを行い、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開していくための情報共有と問題の共有を行いたいと思っております。オープンサイエンスというと、研究者のものと思われがちな面もありますが、むしろこの場に集まっていたいただきたさまざまな関

係者の皆さま、図書館職員の方、大学職員の方、または出版関係者の方まで含めて、多くの学術情報に携わる皆さまが、それぞれの立場から人文社会系の「オープンサイエンスの実践」について考えていただける場、そして、ご自身の取り組みにつなげていただける場にしたいと考えております。